

学道一如

発行
小樽双葉高校
生徒会通信
2023年11月7日
第43号

中学生に数学・理科わかりやすく オープンスクール・学力テスト対策

10月28日、中学3年生を対象にオープンスクール・学力テスト対策が実施された。12名の中学生が数学と理科の授業に取り組んだ。「分かりやすく、理解が深まった」と感謝の声が上がった。



数学は宮原卓先生、図形問題を解くポイントを解説した。



理科の物理分野は西川浩司先生、電磁誘導を解説した。

今月の学力テスト対策は数学と理科で今回、2回目の開催となった。

図形の問題 すごく分かりやすかった

数学は図形問題を解くポイントを宮原先生がテンポ良く解説された。授業を終えて、感想を聞いたところ、「二等辺三角形の合同条件を復習できてよかった」、「なぜその式になるのかわかりやすかった」、「忘れていたところをすごく分かりやすかった」

電磁誘導

理解が深まった

物理分野の電磁誘導に絞って授業された西川先生。コイルを貫く磁界が変化するとき、そのコイルに起電力が発生する現象を実物を使い、起電力の向きを分かりやすく解説された。

生徒たちは「難しい内容を分かりやすく、繰り返し解説してください」、「理解が深まった」、「理系の勉強をしたいと思った」、「聞いているだけでなく、自分で口に出して説明すると理解が深まると思った」、「苦手分野を勉強できてよかった」、「とても分かりやすかった」といった感想が寄せられた。三時間目のFTBタイム(自学自習の時間)も理解を深める良い時間となったようだ。

学力ついたと実感

夏休み中は英語・国語・数学の学力テスト対策も実施され、複数回出席している中学生もいた。中には、「おかげで校内の学力テストで教科で1番を取ることができました」と報告してくれる生徒もいたようだ。

双葉の郷里

先日、ある数学の先生が「勉強は物事の本質を見抜くためにするんだ」とおっしゃっていました。私はこの言葉は勉強の意味を分かりやすく伝えるいい言葉だと思いました。

ですが、本質を見抜くというのはなかなか難しいもので、簡単にできることはありません。当然、授業でも間違えることはあるし、メディアなどの嘘で騙されることだってあります。つまり、本質を見抜くというよりは、物事を考えること、というのが勉強の意義なのではないでしょうか。本質を見抜くとは、その結果に過ぎず、勉強するのは物事を常に考え続ける訓練をするためだと私は思います。

「なぜ勉強をするのか」などの難しい問いや普段の生活で感じるささやかな疑問などを解決できる、または自身で納得のできる答えを導き出すことができるようになることこそが勉強の一つの意義だと思えます。

みなさんも考え続け、自分なりの答えを探してみると、より自分の考えや、色々な物事に関しての理解やイメージが深まるかもしれません。



(大塚翔太)